

第 10 回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	平成 20 年 7 月 24 日（木） 県庁 4 階大会議室		
委員 (委員数 5 名) (出席数 5 名)	委員長 広 瀬 慎 一（富山県立大学短期大学部教授） 委員 尾 畑 納 子（富山国際大学現代社会学部教授） 委員 島 谷 武 志（弁護士） 委員 中 村 和 之（富山大学経済学部教授） 委員 林 玲 子（税理士）		
次 第	1 開会 2 入札・契約手続の運用状況等の報告 ① 富山県の入札・契約制度について ② 入札・契約方式別発注工事について ③ 一位不動入札、落札率 100%入札、平成 19 年度落札率等について 3 審議対象工事の抽出結果の報告（広瀬委員長） 4 審議対象工事の審議 5 閉会		
審議対象期間	平成 19 年度下半期（同時期に請負契約を締結した工事）		
審 議 案 件	10 件（審議対象工事総件数 946 件）		
一般競争 入札	3 億円 以上	1 件	（仮称）富山西警察署新築工事（事案 1）
	1 億円 以上	1 件	富山海岸侵食対策人工リーフ（西）築造工工事（事案 2）
	2 千万 円以上	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早月川水系早月川砂防改良床固工工事（事案 3） ・ 一般国道 156 号道路災害防除新山法面工その 2 工事（事案 4） ・ 農免農道新川中部地区 道路工黒部第 5 工区工事（事案 5）
指名競争入札	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民公園太閤山ランド県単独都市公園維持管理上水道貯水槽防水修繕工事（事案 6） ・ 主要地方道小矢部伏木港線地方特定（子撫橋）落橋防止工事（事案 7） ・ 伏木富山港（伏木地区）統合補助臨港道路 3 号線舗装補修工事（事案 8） ・ 土地改良総合整備正得地区 第 2 号農道舗装工事（事案 9） 	
随意契約	1 件	庄東第二発電所 2 号機発電機固定子更新工事（事案 10）	
委員からの意見及び質問並びに当該質問に対する回答	意見・質問	回 答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会としての意見	平成 19 年度下半期における建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていると判断する。		

別 紙

意見・質問	回 答
<p>○事案1の工事について、大規模な公共施設であり、環境に配慮した技術提案を評価する等、総合評価方式にて実施する選択肢はなかったのか。</p> <p>○事案2の工事について、2つの工事を同時に発注し、最初に開札した工事の落札者が次に開札する工事の入札にも参加していた場合、当該者の札は開かない方式をとっているが、なぜか。</p> <p>○(事案3の工事は総合評価方式にて実施しているが)いわゆる逆転現象は何件発生しているか。また、総合評価方式を取り入れたことにより、他に何か効果は現れているか。</p> <p>○事案4の工事について、予定価格と調査基準価格との差が約1千万の開きがあるが、調査基準価格の設定は妥当なのか(低いのではないか)。</p> <p>○事案7の工事について、地震等による被害が懸念されるが、橋梁の耐震補強に係る対策はどのようなになっているのか。</p>	<p>当該工事については、設計をプロポーザル方式にて行い、最も優れたものを採用しており、換言すれば、設計の段階で技術提案を募っていることから、工事の入札は価格競争とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海上工事は頻繁にある工事ではないことから、より多くの企業に対し、受注機会を与えることを考慮した。 ・ 海上工事の施工は自然条件に大きく左右され、施工できる時期も限られていることから、一企業に2つの海上工事を請け負わせることには不安があった。 <p>最低入札価格者以外の者が落札者となる逆転現象については、平成19年度において、110件中8件で発生している。また、総合評価方式により落札者を決定した工事の工事成績の平均点は、全体の工事成績の平均点よりも約2点高くなっており、これも効果の一つと考えている。</p> <p>国や他県と比較して、本県の調査基準価格の予定価格に対する比率は低く、今年4月に国が調査基準価格の算定方法を見直したこともあり、本県においても、現在、調査基準価格の算定方法の見直し(引上げ)について、検討作業に着手しているところである。</p> <p>緊急性の高いものから計画的に順次実施しており、昨今の近県における大規模な地震の発生を受け、耐震補強を一層促進しているところである。</p>
<p>(その他)</p>	